



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA
THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Misson with Faith” 「信念あるミッション」
“Through Love. Service” 「愛をもって奉仕しよう」
「原点に立って、未来へステップ」
「ワイズメンとして一歩前進」
「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2015年8月号

NO 468

彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。
ヘブル人への手紙11章33～34節（口語訳聖書）

東京西、まだまだ面白いと思いたい、言われたい

40周年事業委員長 吉田 明弘

来年7月、クラブは創立40年を迎えます。1年以上前に、木原洗会長から、記念事業を考えてくれと言われていました。しかし、40年という中途半端な年と、クラブの現状を考えると、明確なイメージを描けませんでした。

記念祝会についても、自分の祝いを自分で呼びかけて、しかも、参加くださる方から会費をいただくのも、妙なものだと思っていました（ワイズでは常識ですが）。

参加してくださる方に、何をお持ち帰りいただけるだろうか。

6月例会で、次期クラブ会長・大野貞次さんが発表した会長標語が「あがいてみよう、この1年」でした。自分の気持ちと一致しているように感じました。例会に出席した会員全員が、40周年を行うことに賛成でした。すぐに委員会が動き出しました。

近年、クラブ平均年齢が話題に

出ます。データそのものは価値がありますが、個々のクラブが意識し過ぎると、弊害の方が多いと思います。会員20人ほどのクラブでは、平均より個人差が重要でしょう。40代の会員と80代の会員しかいないクラブの平均年齢は、60代ですが、現実には、60代の会員はいないのです。平均年齢を言うことで、居心地の悪さが出たり、活動を最初から制約してしまうことがあります。

人の能力は一律ではありません。ある部分では年齢を超えた能力を持っています。今回の事業の準備でも、それぞれが、やりたいこと、好きなこと、やれることをやって、それがクラブとしてまとめられたいと思います。

「東京西、まだまだ面白い」、と私たちが思い、お客様にも言ってもらいたい。これが40周年記念の引き出物と考えています。

WHOウォーク今後の予定

WHO ウォーキングの神田川シリーズも、6月の「船から観る東京」で終わりました。9月からは、単品メニューとなります。

WHOも10月には、歩き始めて190回目となり、都内は、ほとんど歩き尽くした感があります。今後は、新しいコースの開発に努めるとともに、最近参加した方も多ことから、過去に歩いたコースの新しい切り口でのリニューアルも考えていきます。

今後の予定は、次の通りです。あくまで予定ですから、さまざまな事情によって変更があります。最新の『WHOレポート』でご確認ください。

- 9月26日 民音音楽博物館他
- 10月24日 行徳、寺と神輿の町
- 11月28日 駒沢公園・九品仏
- 12月19日 新大久保国際通り
- 1月23日 川崎大師他
- 2月 未定 JALミュージアム
- 3月26日 横浜寺家ふるさと村
- 4月23日 調布・東郷寺周辺

クラブ役員

会長 大野 貞次
副会長 高嶋美知子
書記 篠原 文恵
会計 石井 元子
担当主事 小畑 貴裕

7月の記録			ニコニコ	0円
在籍者数 17人 (内功労会員) 1人	メネット	0人	クラブファンド	0円
例会出席者数 13人	コメント	0人	ファンド残高	340,319円
メーカーシップ 2人	ビジター	4人	ホテル校ファンド	10,702円
出席率 94%	ゲスト	7人	ホテル校残高	24,248円
前月修正 -	出席者合計	24人	WHO参加者	67人

8月納涼例会のご案内

今月の強調テーマ： CS

8月例会は恒例の納涼例会です。雰囲気を楽しめるレストランで、リラックスして美味しいご馳走を食べながら、クラブ設立40周年記念をどのように迎えるか、会員増強は、CS活動は、高齢化の克服、等々を語り合い、親睦を深めましょう。

日時：8月20日(木)18:00~20:45

会場：クレール・ド・リュヌ

杉並区上荻窪 1-10-4 (03-3393-5995)

荻窪駅西口を出て突き当りを左折、

「餃子の王将」の2軒先

会費：5,000円(ゲスト、ビジター、メネット)

4,000円(メンバー)

担当：B班(神谷、河原崎、竹内、高嶋)

HAPPY BIRTHDAY

4日	篠原 文恵	13日	神谷 幸男
15日	本川 章	17日	山田利三郎
18日	河原崎九州男	25日	木原 洸
31日	竹内 隆		

開会点鐘
ワイズソング
聖書朗読・感謝
挨拶と紹介

受付 高嶋美知子
司会 河原崎和美
大野 会長
一 同
竹内 隆
大野 会長

会食と歓談(メンバースピーチ)

一人当たり一話題で

一 同
司会 神谷 幸男

ハッピーバースデー

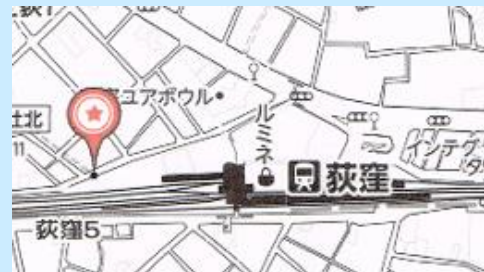
ワイズ報告

YMCA報告

スピーチ(ニコニコ)

閉会点鐘

大野会長他
小畑 主事
一 同
大野 会長

40周年祝会、具体化
— 7月事務会報告 —

日時：7月23日(木)

19:10~21:10

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：石井、大野、神谷、木原、高嶋、吉田

<報告事項>

- ①7月のデータを確認した。
- ②7月の経常会計を承認した。
- ③会員の近況が報告された。
- ④あずさ部評議会の報告がなされた。
- ⑤WHO「神田川シリーズ」の終了が報告された。「船から観る東京」も49人が参加して、収支も問題なかった。
- ⑥8月29日に東京YMCA東陽町センターで行われる東京YMCAまつりでクラブとして行う長野大震災被災地・栄村の物産販売の計画が報告された。

<協議事項・例会関係>

▲9月例会

あずさ部長の公式訪問の予定。

日時：9月17日(木)

会場：あんさんぶる荻窪5階

担当：C班—山田(利)、小畑、小山、鳥越、本川

卓話：「損害保険のおもしろ話」
田中博之氏(東京海上日動火災保険、東京クラブ、直前理事)

▲10月例会

日時：10月15日(木)

会場：未定 卓話：未定

担当：A班—吉田、石井、木原、篠原、堀内、山田(紀)

<協議事項・例会以外>

- ①2015-2016年度予算案が説明され、承認された。
- ②40周年記念事業委員会から、2回の委員会での報告がなされ、承認した。(事業については、別項に記す)
- ③8月号ブリテンの編集の進行状況が報告された。
(書記代理・吉田明弘)

40周年祝会の概要

2回の委員会の検討結果と事務会承認事項は、次の通りでした。

- ・期日：2016年7月16日(土)
- ・会場：中野サンプラザ
- ・内容：式典・記念講演・祝会
- ・参加者予測：130人
- ・参加会費：7,000円
- ・会場費、講師謝礼、IBC・DBC関係・記念誌・総務費などは、クラブ会計から支出するものとして、委員会に、予算案の提出を求めた。
- ・委員会構成
委員長：吉田、総務・会計担当：神谷・石井、PR・登録担当：大野・本川、プログラム担当：吉田・河原崎・鳥越、会場担当：大野、記念誌担当：篠原・吉田、IBC・DBC担当：高嶋
作業の進行に応じて、委員を補強する。
- ・記念講演講師
時代を感じさせる、新鮮でインパクトのある講師を人選したい。会員からの推薦を求める。
- ・日程
10月14日のあずさ部会で第1報を行う。



苦心の俄かつくりの高座で六法亭無生(辰口秀雄)さん

ー 7 月例会報告ー

東京西クラブとしては珍しい「東京西クラブ寄席」なる例会となった。DBC 大阪西クラブなどは本職の噺家が在籍していたこともあってか、度々「大阪西クラブ寄席」例会が開かれるようだ。

さて、「東京西クラブ寄席」にお招きした噺家さんは大学落研の名門・日大落研の OB、六法亭無生さん。アマとは言えそこらの二つ目さんより芸達者で、八五郎出世の一番を格調高く、噺の中に誘い込まれ、大いに笑わせ楽しませてくださった。

例会そのものも、いつもとは違ってまずは噺を聞きましょうと、一席後に通常の例会。会食中も質問や感想百出。これまた大変楽しいひとときになりました。

準備と言えば、早目に会場（山手センター101室）に集まって、高座づくり。高座というものをあまりよく知らない面々が一生懸命にテーブル6台をしっかりとロープで括り付けて強固な台づくり。そこに厚手の白い布、その上に赤毛氈を敷き、六法亭さんが予め宅配便で送り届けられていた大きな座布団を載せて、立派な高座が出来上がり。後は噺家を待つのみ。

CD の出囃子に載って演者の登場と相成った。まくらも楽しくお噺は前記の通り。噺が渦中に入り体が大きく動くと、高座となるテーブルの軋み音が聞こえて来てハラハラさせる一幕もあったが、あの小一時間は大変楽しかった

と喝采、おちとなった。お連れ合いも友人を伴って応援に来てくださり、会を一層盛り上げてくださった。その後は、ワイズ報告と YMCA 報告のみ、閉会となった。

(神谷幸男)

出席者：石井、大野、小畑、神谷、河原崎、小山、篠原、高嶋、竹内、鳥越、吉田、山田(紀)、山田(利)、<ビジター>越智京子・中澤正子・藤江喜美子・小原史奈子、<ゲスト>下村久幸、関喜一郎、高橋和子、高橋裕、辰口秀雄(六法亭無生)、辰口政子、牧野映江、<メーカー>木原(事務会)、本川(あずさ部評議会)



WHOの船に49人が参加(5月には別に19人も)

神田川・ウォーク&クルーズ WHO 7 月例会報告

7 月 25 日は、WHO 神田川シリーズの最終回でした。

井の頭池を水源として、柳橋で隅田川に注ぐ神田川。その約 25.5 km を 6 回に分けて流域の見どころを巡りながら歩き切りました。

この日は、東京地方の梅雨明け 2 日目で曇天。歩く予定は約 3km でしたが、JR 秋葉原駅～浅草橋駅間は電車移動に変更しました。御茶ノ水駅前からニコライ堂を眺めて湯島聖堂と神田明神へ。明神下を東に下りました。

総武線の冷房は身に沁みました。浅草橋から再び神田川に沿って、1 つ下流の目的地、柳橋につきました。簷で飾られた橋に上がると正面に隅田川が見えました。

橋のたもとで、地元を代表した浅見隆夫さん(東京グリーン)の音頭で「関東三本締め」。丁度正午、ここで両国へ向かう組が別れ、「船から観る東京」クルーズに参加する組は、再び、浅草橋の船宿三浦屋へ。ここで粋人丸を待つ間に、体調不良者を出したのは不覚でした。幸い大事に至りませんでした。

炎天下の船はどうなるかと、途中で氷を仕入れるなどで備えました。ない筈だった屋根も張ってもらえて、川風、海風もあって快適でした。ここで仕出しのお弁当。ガイドは、浅見クミ子さん、

浅見隆夫さん、柿沼敬喜さん(東京グリーン)。豊富な知識と経験、それぞれの語り口で楽しく聴くことができました。神田川を遡上して、日本橋川を下り、隅田川を経て、ベイエリアを巡って、再び隅田川の両国橋北から神田川に戻りました。

話題の卸売り市場、オリンピック会場など、水面から東京を観ることができました。

両国組は、樋口順英さん(東京グリーン)の案内、カメラは関喜一郎さん(元所沢)と、ワイズメンに助けられての、神田川シリーズでした。(吉田明弘)

参加者は 67 人。ワイズ関係は、石井・大野・河原崎・小山・篠原・本川・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、青木・浅見(ク)、浅見(隆)・樋口(東京グリーン)、神谷・小仁(東京北)、関(元所沢)でした。

シリーズ動画の頒布

WHO 神田川シリーズの約 400 枚の写真を関喜一郎さん(元所沢)が約 10 分の動画にしました。ブルーレイは 1 枚 100 円です。



独特な話を駆使して語る吉田明弘さん



会場となった目白聖公会礼拝堂のステンドグラス

あずさ部「海の日」評議会

台風が過ぎ去っても曇天の7月18日昼、目白聖公会で今年度第1回あずさ部評議会が行われました。ホストクラブの山手クラブとたんぼぼクラブの皆さんの出迎えを受け定時に開会。

標克明あずさ部新部長（甲府）の開会点鐘に始まり議案審議、東日本区役員会報告、事業主査・クラブ会長所信表明で評議会は終了しました。

評議会議案

第1号議案：2014-2015年度会計決算承認の件

第2号議案：2014-2015年度決算監査報告の件

第3号議案：あずさ部部長・部選出代議員・監事選出順、部会・評議会担当順承認の件

いずれも賛成多数で承認となり、休憩をはさんで当クラブの吉田明弘さんの卓話「やっぱ、ワイズだべ」が始まりました。

区ヒストリアンを13年務められたのでワイズにまつわる各氏の言葉・クラブの特色などを分かり易く語られました。

特にワイズの信条は、入会当時から硬い印象を受けていましたが、これは組織の上から押し付けられたものではなく、熱海クラブ設立時に、竹内敏朗さんを中心に設立に参加した人たちが、クラブは何か特徴かを真剣に話し合う中で生まれたとのことで、身近な言葉と受け止めることができました。

「親睦組織は義務が加わると飽きない」「サーバントリーダー（人と社会に仕えるリーダー）」「ワイズは大人の幼稚園」の言葉が印象に残りました。

テーブルを囲み茶菓子での懇親会のあと、1929年から存立する隣地の聖堂を鈴木牧師のご案内で見学、イギリスの教会から無償で譲り受けたという精緻なステンドグラスを拝見できました。

出席者は、石井、大野、神谷夫妻、河原崎、篠原、高嶋、本川、吉田さんでした。（篠原文恵）

東京YMCA夏まつり

YMCAはイエス・キリストの教え、「隣人を愛しなさい」を基本的精神に持って活動する人材を、またその人材を育成する活動に取り組んでいます。

今年は8月29日（土）に行われる東京YMCA夏まつりも、ソフトな形でその取り組みの一環として、会員の育成、親睦、YMCAスタッフの支援活動の一つと思って、小生も微力ながらこのイベントに関わっています。

夏まつりの詳細はチラシ等で広報されていますし、東京西クラブの皆さんも、1枚250円のお楽しみ抽選券を買い求められて良くとご存じのことでしょう。

概要は、開催日時・場所：8月29日（土）11:30～15:30、東陽町センター。催し物としては、模擬店、子どもコーナー、被災地支援販売コーナー、バンド演奏、

お楽しみ抽選会など。

景気付けに会場に提灯を飾りますが、我がクラブもとりあえず1個提供しています。模擬店では、東京江東、東京ひがし、東京、東京グリーン、東京たんぼぼ、東京北、東京世田谷、東京むかで、東京武蔵野多摩が生ビール、おつまみ、焼きとり、枝豆、かき氷、焼

きトウモロコシ等々の出店に汗を流します。

わがクラブは長野県栄村の物産品を販売します。夏まつりの準備は、職員と会員約30人から成る実行委員が2～3回の実行委員会にて、企画等に当たりますが、前日の会場設営、資材の搬入等、当日の後片付けには若手の会員ボランティアが活躍します。この準備作業も、老体にはかなりしんどいですが楽しみも感じます。

楽しみと言えば、もっとエネルギーを消耗するインターナショナルチャリティーランが9月23日（水）に開催されますが、これもかなりの肉体労働を伴います。が、ランナーにならなくてもスタッフとして参加することの楽しさもここ10数年の関わりで味わうことができました。この程度のYMCAとの関わりかたでも結構人生の豊かさを実感できますね。

（神谷幸男）



☆☆ インタビュー ☆☆ 村杉克己さんに聴く

* * *

村杉克己さん(東京北)は、1973年に入会のベテランワイズメンです。昨年からは東京 YMCA の理事を務めておられます。



一村杉さんは、ワイズと YMCA と、どちらが早かったのですか。

「1973 年の東京グリーンクラブ設立以来です。最初はワイズに誘われましたが、メンバーに東京 YMCA の中心人物がいましたので、すぐ YMCA 活動にも参加し、それからはいろいろあって、今に至っています」

一何かの縁があったのですか。

「自営業で交友関係の少なかった 29 歳の時、日本区理事を務め叔父の抱井五郎から『友達が大勢できるぞ』、『社会勉強ができるぞ』、『人のために働けるぞ』、『ちょっとはお金はかかるけれど』と。その誘いのおかげで 42 年間、友達ができました。YMCA を知りました。知識が増え、全国への旅ができました」

一抱井五郎さんが理事に就任されたのは 1970 年、抱井さんは 39 歳でしたね。みんな若かった。

「ええ、昨年 3 月に亡くなりました」

一はじめてワイズに入り、何か感じたことがありましたか。

「教会と同じ基盤ですから違和感はありませんでした」

一生まれも育ちも浅草ですか。

「そうです。親の代から浅草です。父親は東京、母親は信州小諸の出です」

一パートナーの一榮さんも浅草生まれですね。

「浅草教会の日曜学校幼稚科、KKS (高校生会)で一緒でした。一時期空けて、24 歳半で一緒になりました」

一村杉さんのお仕事は。

「各種記念品、カップ・メダル・トロフィーなどの表彰用品の製造販売の仕事をしています」。

一サラリーマンの経験は。

「子どもの頃は野球選手になりたくて。でも、カラダが小さくて断念。だんだん現実的になって、成長産業だった家電メーカーで営業をして、4 年くらいで脱サラ、現在の仕事になりました。家電メーカーの社長の考え方に大きな影響を受けて、今も心に留めています。社是は「5つの蓄積」。信用、資本、奉仕、人材、取引先の蓄積でした。

一日本区の物品部の委員も長かったですね。

「そうですね。物品部も委員が多くいて、新製品を開発して、利益を出し、区の財政を助けた時期もありました。でも在庫負担などの問題があり、区としての事業は整理して、私が委託されて国際からの物品などを仕入れたり、規模に応じての製造もしています」

一下町に YMCA をつくりとうと東京北クラブが誕生しました。

「そういう構想でしたが、地域に寺町・観光地という特異性があり、東京 YMCA との検討の結果、方向転換をしました。近年は、清泉女子大学の YMCA と協働を進めています」

一東京北クラブは、3 度、区大会のホストに立候補しましたね。区役員会の投票で 2 度負けたというのは珍しい記録です。

「1 回目は、アジアとの窓口をかかげた福岡中央クラブ、2 回目はディズニールランドの東京江東クラブに負けました。15 年後の 3 回目は、浅草で決まりましたが、ホテル側の都合で赤坂のホテル

ニューオータニで行いました。大会ホストに候補したクラブは、どこも、熱気に満ちていました。一村杉さんは、区役員会に出席する年が多かったのですが、役員会の夕食会ではいつも進行役をして、何十人いようと、ひとり一人をうまく紹介して、面白いスピーチをするように仕向けられていました。ひとつの芸ですが、材料をどうやって仕込むのですか。

「YMCA、ワイズメンズクラブは、人と人の繋がりを大切にする集まりですから、ヒトコトでも話した方が、親しさが増すと思っています。材料は、その人その人に興味を持って、良いところを見つけて、雰囲気に合わせて紹介しています」

一村杉さんは例会をまったく欠席しませんね。

「1973 年の入会以来、無欠席です。継続は力です。職住一緒、例会場が近い、自営業ですから少々の無理が利くなど有利なことがありますね。例会日前後は行動予定を常に頭に入れておくことは心がけます。そのことでの仕事上の苦情はありませんでした」

一ご家族を含めた健康も欠かせませんよね。村杉さんは、まだ、早朝野球をやられているとか。

「朝 5 時 45 分に試合開始です。スカイツリーをバックにしたの隅田球場がホームグラウンドです。父親の影響で 14、5 歳から続けています。今は、息子 2 人が中心のチームです。東京ドーム球場での試合経験も何度かありますよ。監督、総監督も卒業して、今はもっぱらベースコーチとスコアラーですが、9 人目の選手としての出場もあります。年間 30 試合くらい。連盟の審判も月 4、5 試合しています」

一ワイズに入会して良かったと思うことは、どんなことですか。

「叔父の言った通りでした」

一ありがとうございます。

(吉田明弘)

うつ病や認知症などの病気が増えて、集中力の低下や感情のコントロールに悩む人が多いようです。脳は千数百億個の神経細胞が集まっていて、目や耳などで得た情報は、神経細胞を伝う形で脳内を駆け巡ります。脳の働きが良いというのは、この細胞間の情報伝達が円滑に進むことです。

脳の働きを良くするには、細胞が喜ぶ食物を摂ることが大切だと言われています。神経細胞は日々の食事で摂る脂肪で作られます。脂肪のほか、細胞間で情報を伝える物質の主原料はたんぱく質、情報伝達のエネルギー源となる炭水化物は、脳にとって重要な栄養素といえます。米国のマイケル・レッサ博士は「神経細胞は主にオメガ3脂肪酸という油で作られるが、体内では作られないため、食事で積極的に摂る必要がある」と言っています。

体に良いとされるドコサヘキサエン酸(DHA)はオメガ3脂肪酸の一種ですので、具体的にはオメガ3脂肪酸を豊富に含む亜麻仁油や小魚などがお勧めです。亜麻仁油は加熱せず、サラダにかけて食べるなど、個人差はあるが毎日小さじ1杯でも摂ると、健康効果が得られるといえます。

休まず、楽しく、頑張らず！

こおちゃんの *Wellness*

脳の働きは 食事で改善

2011年2月掲載 堀内浩二

また、大豆や玄米などに含まれるリン脂質のレシチンを摂ることも大切です。レシチンは神経細胞の細胞膜などを構成する物質で、IQ食品とも呼ばれています。食べすぎないように注意したいのがマーガリンに含まれるトランス脂肪酸という油で、欧米では動脈硬化を起す恐れがあるという理由で使用規制が課せられています。神経細胞間の情報伝達に関係するたんぱく質や炭水化物も大切で、積極的に摂りたい。たんぱく質はタコやイカに多く含まれるアミノ酸の一種であるタウリンで、集中力を高める効果があります。脳が興奮してくるとイライラしがちになりますが、タウリンがその興奮を抑えてくれます。日常的には穀物や豆など植物性のたんぱく質を多めに摂りたい。植物性の食品は動物性に比べて、神経細胞の生成に必要なビタミンやミネラルが多く、脳の働きの改善につながります。動物性たんぱく質は主に小魚から摂るのが良いが、油の少ない良質な肉やビタミンB3を摂ると脳内でうつ状態などの改善に役立つと阿部博幸医師は言っています。神経伝達物質を送り出すエネルギー源になる炭水化物も、よく噛んで食べることが大切。

就活と終活

石井元子

我が家はマンションの6階で、5階に娘一家が住んでいるがお互いに忙しいので孫たちに会う機会が少なくなっている。数日前、偶然に玄関ロビーでリクルートスーツ姿の孫娘に遭遇した。「あら！ 久しぶり。就活、頑張ってる？」と尋ねると「なんとか頑張ってる」と答えた。少し立ち話をして別れ際に、「バーバも終活、頑張ってるね！」と手を振りながら出掛けていった。

孫娘に言われるまでもなく、今や、世の中は“老い”を生きる我々のために終活に関する書物や記事が溢れ、セミナーや講演会も大盛況である。かつてはタブー視され、自らも触れたくないと思っていた事柄が、終活という言葉で目の見るようになった。

私自身は、まだまだ人生を謳歌しているつもりなので、真剣に考えた事がないが、「囲りには迷惑

を掛けない」を目標に、残された者が後顧の憂いなく心から去りし者を悼み懐かしむ事が出来るよう、常日頃から心がけたい。

私は子供の頃から整理整頓、掃除が大好きで、終活の一つ、身辺整理は既に終了している。今後、余分な物、不必要な物は持たない。捨てる事をためらわない。

インテリアはすっきり、自分にとって良い物をつか二つ選び、飾る。郵便物、書類、新聞などはその日のうちに整理し、机の上に積上げない、等々を実行する。

ある人曰く「周囲に迷惑を掛けない」終活ではなく、「自分の生涯の完成を目指せ」との事。難しくそう…。

編集後記

クラブ設立40周年を記念する企画がスタートしました。その方向付けとなる記事を吉田明弘さ

ん(40周年事業委員長)が書いてくださいました。「東京西、まだまだ面白い」と私たちが思い、お客様にも言ってもらいたい。これが40周年の引き出物です、と。

正にその通りであると思います。クラブに主張があり行動がある、が周囲の期待を招きます。

編集子のワイズの師とも言うべき石井一也さんは常にワイズ活動に心を砕いておられ、実行に努力されていたと思います。

クラブ会長、部長、事業主査・主任、区理事、ICM、地域会長の役に就かれたとき各クラブの活動を支援してこられたと思います。私たちはそれと同じことをするのではなくその想いと情熱を見習って新たな装いの何かを実現できればと思います。石井一也さんは今は病のため長期入院中で、全く活動ができない状態ですが、早く回復され、ワイズに復帰されることを願っています。

(S.K)